

¥0

Free

No.8
2015 年春号

世俗と世尊を望む谷

善通寺から
みえる世界遺産

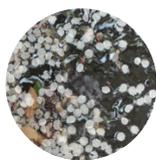
筆の山にかぎのぼりてもみつるかな

こけのしたなる岩のけしきを

西行

散策 善通寺

ふる里の風景を歩く



空海の里を
再発見する

特集

西行の
軌跡をめぐる

必携の
散策ガイド

捨身ヶ岳 禅定



弘田川

金倉川

天霧山

弥谷寺

金蔵寺

榎湧 (永井の湧水)

曼荼羅寺

鷺井神社

甲山寺

下湧

筆の山

ひょうたん池

香色山

出釈迦寺

市民集いの丘公園

善通寺駅

西行庵

旧偕行社

我拝師山

善通寺

四国学院大学

二頭湧

禅定寺

赤レンガ

金毘羅燈籠

西行庵コース

大池

王墓山古墳

大麻山

宮が尾古墳

野田院古墳

葵の瀧

龍王社

琴平駅

金刀比羅宮

琴平山 (象頭山)

善通寺市散策マップ

五岳山

天霧山

善通寺

曼荼羅寺

善通寺と丸亀平野（飯野山より）

さいぎょう
西行も巡礼した空海生誕の地、善通寺市

平安時代末期、僧であり歌人でもあった西行は善通寺を訪れました。もともと武士だった西行は23歳で出家、円位と名乗り、仏道の修行と和歌に没頭しました。その後、西行と改名し、高野山で修行した彼は、真言宗開祖の弘法大師空海を慕い、53歳の時に現在の善通寺市内に庵を結んで過ごしました。彼のエピソードは今も善通寺市のあちこちに残っています。

西行の軌跡を巡る

西行庵コース

善通寺近隣に庵を結んで数々の歌を残した平安歌人の西行。西行は空海生誕の地で何を感じたのでしょうか。善通寺市に残る西行の軌跡をめぐる。

コース
紹介

西行の軌跡から見えるものとは・・・

西行庵コースの所要時間：1時間半

曼荼羅寺

西行庵

生木大明神

出釈迦寺

曼荼羅寺

西行庵コース

水釜の岡



①-1 西行の昼寝石 (曼荼羅寺)

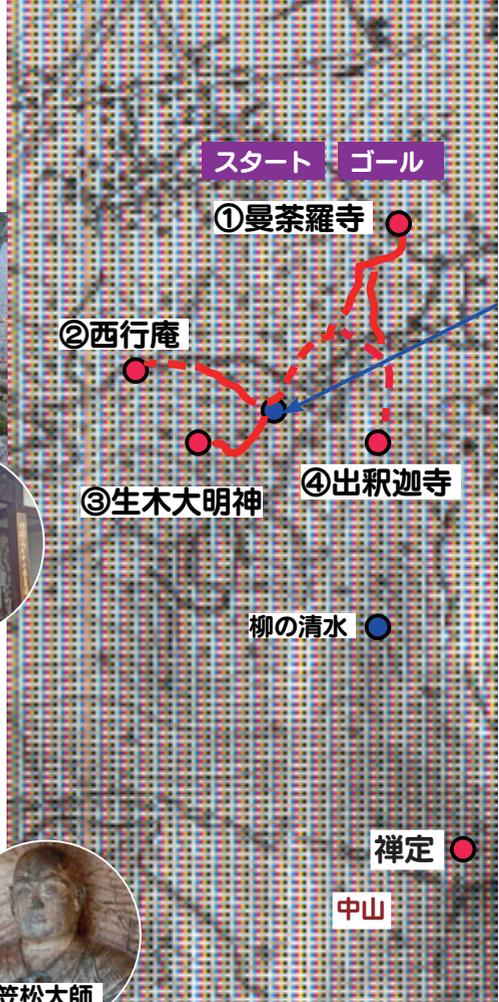
曼荼羅寺には西行法師が昼寝をしたと言われる石が残っています。どこか可愛らしさのある石で、ゴロンと横になるには、丁度良い形です。昼寝石に横たわり、気持ちよさそうに眠っている西行法師の姿が目浮かびます。



曼荼羅寺 (金毘羅参詣名所図会)

①-2 不老の松 (曼荼羅寺)

曼荼羅寺には不老の松 (通称、笠松) と呼ばれる直径 13m を超える松がありました。平成 14 年に松食い虫の被害で枯死したため、幹に弘法大師像が刻まれました。



スタート ゴール

①曼荼羅寺

②西行庵

③生木大明神

④出釈迦寺

柳の清水 ●

禅定 ●

中山

笠松大師



①-3 禅定 (↓: 曼荼羅寺より)

弘法大師が日ごと登ったという曼荼羅寺の行道所。西行は、この行道所とその上の捨身ヶ岳を訪れています。

左：生木大明神

右：西行庵

● 市民集いの丘公園

筆の山

我拝師山

● 捨身ヶ岳



②西行庵（水茎の岡）

西行法師は、善通寺で2つの庵を結びました。玉泉院にある「久松庵」とこの「西行庵」です。現在の建物は、3回目の再建によるものです。入り口には小さな石橋が架けられ、敷地内には西行の歌碑を見ることができます。



④出釈迦寺

西行の時代にはまだなかった寺のようです。境内には、大師が釈迦如来を拝んだ捨身ヶ岳を遥拝できる場所があります。



③生木大明神

お社の中には、いかにぞくたい衣冠束帯姿（平安時代の正装）の木造の男公家の座像が祀られています。この像は、西行が背中に背負ってきたと伝わります。



西行庵付近からの眺望

がはいしさん 我拝師山再発見

世俗と世尊を望む谷

さいぎょう 西行が眺めたもの

西行の歌集、山家集さんかしゅうの件で「四国のかたに修行しけるに・・・」と綴つづられるように、西行の四国行脚あんぎゃは修行の旅であり、五色台の白峯にある崇徳院の墓参とともに真言宗の祖、空海の生誕地の遺跡巡りに旅の目的がありました。

諸説はあるものの、西行は我拝師山付近の水茎の岡に庵を結んだといわれ、そこで数々の歌を詠みました。我拝師山は、当時修行する空海が釈迦如来（御師）に会った山として伝わっていました。西行は、地元の人々がこの山を「われはいし」と呼び、呼び名に山を付けないことを面白がってい

ます。この山の西側には曼荼羅寺まんたらじの行道所ぎょうどう（現在の禅定ぜんじょう）がおかれ、また、その上の空海が釈迦如来に会ったという捨身ヶ岳には塔が立っていたようです。

西行の庵付近からは、世尊の釈迦如来が現れた捨身ヶ岳のみならず、ふつうの人々が住む俗世間まで一望できます。西行の庵は、いわば世俗と世尊の狭間にあつたのです。それでは、西行はなぜここに庵を結んだのでしょうか。

四国行脚の目的が修行であつたことを考えると、西行は釈迦如来が現れたこの山に強い関心を寄せたと思われます。同時に、世俗の人々を見つめることで、世尊の前で繰り返される世俗の行ないに、ものの哀れ



を見いだそうとしたのかもしれませんが。

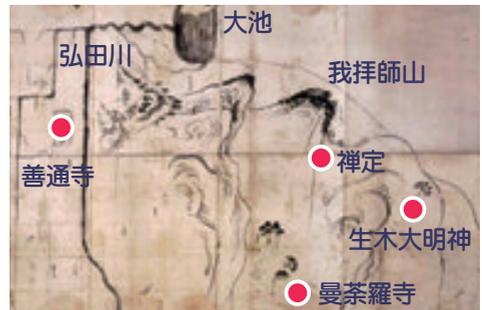
善通寺行脚は西行の宿命？

西行は代々皇室を護衛をする衛府に仕える家系に生まれ、鳥羽院の北面の武士に選ばれました。同僚には同年の平清盛がいました。実は、この北面の武士は、延暦寺や興福寺が神仏の権威を借りて朝廷に要求を通すために行っていた強訴を防ぐためのこのえ近衛団でした。その後、出家した西行は京の北山や東山を点々とした後、陸奥平泉への旅を経て、高野山に入山しました。西行は、この間に善通寺を訪れています。

皇室護衛の家系に生まれた西行は、当然、朝廷に要求を突きつける延暦寺や興福寺でなく、高野山に入山しました。その結果、開祖空海の生誕の地を訪れることになったのです。西行は善通寺を訪れる宿命を背負っていたと言えます。

恋の歌を詠み続けた西行

西行の山家集には、驚くほど多くの恋歌が収められています。仏道に行く西行はなぜそれほどまでに恋の歌を詠んだのでしょうか。一説によると、西行は、恋の歌を詠む事で「煩惱に溺れると、私（西行）の様な結末が待っている」という説法の一つとして、仏門からかけ離れた恋の歌を詠んだと言われます。他の僧にはない視点で仏門の教えを説こうとしたのかもしれませんが。



鎌倉時代の善通寺周辺



捨身ヶ岳禅定



サンティアゴ・デ・コンポステラ
の大聖堂（世界遺産）



巡礼路（世界遺産）

世界遺産になった巡礼の道

巡礼とは聖地を巡ることをいいます。キリスト教ではふつう一つの聖地を訪れますが、日本ではおもに複数の神社仏閣をめぐるります。また、参詣ともいい、特に四国八十八ヶ所を巡ることを遍路といえます。

2004年に世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」は、世界遺産になった巡礼の道として日本でもよく知られています。それに10年ほど先立つ1993年に、キリストの十二使徒のひとり聖ヤコブの遺骸が発見されたことで始まったスペインの「サンティアゴ・デ・コンポステラの巡礼路」が世界遺産に登録されました。

中世ヨーロッパではサンティアゴ・デ・コンポステラなどの聖地に巡礼すると、贖宥（信徒が果たすべき罪の償いを軽減すること）が許される贖宥状が与えられました。徒歩で約1ヶ月ほどかかる聖地巡礼の道程に償いの意味があるといえます。また、病気治癒などの奇跡の噂も、巡礼の大きな原動力になりました。

日本の巡礼路は、本来衆生救済の験徳を求め、修験者の修行場として開かれましたが、後に一般僧や民衆が巡るようになりました。庶民の巡礼は聖地の霊験を求めたものだったと思われませんが、徒歩での巡礼は

「道」が世界遺産

ふつうの道が世界遺産に登録された例があります。独特な宗教活動が行なわれる巡礼路は、しばしば伝統的な文化活動を育みます。聖地をめぐり歩くことに宗教的な意味があり、歩くことによって文化の風景が生まれます。



願いを叶えるための修行でもありました。洋の東西を問わず、歩いて巡礼をすることに意味があるようです。

空海生誕の地や修行の地がある四国では、空海入定後^{にゆうじょう}に空海の足跡をたどって真言宗の僧が巡りました。西行もそんな僧の一人でした。江戸時代、空海の徳にあやかりたいと願う大師信仰が庶民に広まると、人々は四国遍路道指南^{しごくへんろみちるべ}というガイドブックを手^に、四国の空海ゆかりの地、八十八ヶ所を巡るようになりました。今でも、空海生誕地の善通寺市には多くの人々が訪れています。

お接待

四国遍路では、無償で宿を提供したり、食べ物^をを支援する「お接待」という風習があります。巡礼という修行をする遍路を支援することで仏恩を受けようとするものです。四国遍路のように道程が長い巡礼ほど根強く残っているようです。

実は、このお接待はスペインの巡礼路にもあります。無料または安価な宿泊所や食べ物^がが用意され、巡礼の足を水で清め（洗足の儀）、800km以上の道程をゆく旅の無事を祈ります。いずれの巡礼も、無償で奉仕する人々に支えられています。

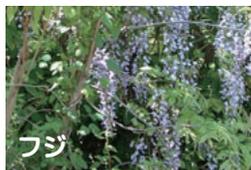
「善通寺五岳の里」 市民集いの丘公園



パーゴラを彩る花

フジはつる性の落葉樹で、他の木に巻きついてよじ上り、樹冠を占領して薄紫色の大きな花を垂れ下げます。そのため、花の観賞用にフジを庭に植える際には、藤棚に這わせて下から花を楽しみます。「善通寺五岳の里」市民集いの丘公園でもフジを下から鑑賞できる仕掛けがありますが、ここでは洋風の棚、パーゴラが造られています。

初夏の花木のフジに対して、秋に咲く野草のクズもよく似た花をつけます。どちら



もマメ科の植物で花はよく似ていますが、フジは垂れ下がり、クズは上向きに立ちます。どちらも、きれいな花だけでなく、甘い香りも堪能できます。

季節がめぐる街の公園

庭園、ひとくちメモ (8)

平安時代の皇后の住居（飛香舎^{ひぎょうしゃ}）には、フジが植えられており、藤壺^{ふじつぼ}と呼ばれました。藤原一族の隆盛もあって、フジの薄紫色は高貴な色として尊ばれました。その高貴なイメージに反して、野生のフジは締め殺し植物として知られています。フジに巻きつかれた樹木は、フジが太くなるにつれて圧迫され、最後は倒されてしまいます。

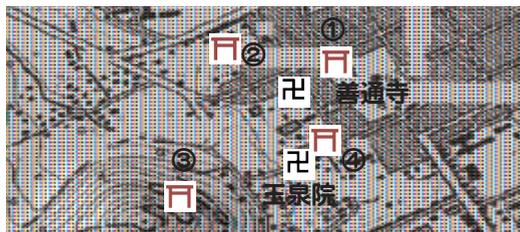
日本の庭の藤棚に対して、西洋庭園にはパーゴラが造られます。主役はやはりバラ。ロンドンのキューガーデンでは、初夏にな



キューガーデン

ると、パーゴラに絡んだ色とりどりのバラが人々を楽しませてくれます。世界から集められたツルのバラから、交配によって作出されました。ここでも、バラの華やかな花と甘い香りを満喫できます。

比べてウォッチ！



あらかた 四方の荒魂神社

善通寺は4つの荒魂神社に囲まれています。荒神は仏法や寺の伽藍を守る神といわれます。悪神が仏教に帰依して守護神に変わったというヒンドゥー教の風習が、日本の荒ぶる土着神や火の神（荒魂信仰）にあてはめられ、仏法に帰依した荒ぶる神と考えられるようになりました。善通寺の伽藍は、東西南北に配された荒神さまが守護していることでしょう。

風景をたのしむまめ知識



西行が愛したサクラ

西行はサクラを詠んだ歌を数多く残しています。パツと咲いてパツと散るサクラにもこの哀れを感じたのでしょうか。実はこのサクラは春の山をピンクに染めるヤマザクラなのです。普段私たちが花見に出向くサクラはソメイヨシノといい、江戸時代の末期に見つかりました。ソメイヨシノはヤマザクラとは違って、葉が出る前に大量の花をつけるため、見事な花を見ることができます。西行がこれを見ていたら、どんな歌を詠んだのでしょうか。

ヤマザクラは葉と花が同時に出ますが、ソメイヨシノはまず花をつけます。

持ち物リスト		
服装	登山グッズ	その他
<input type="checkbox"/> 帽子	<input type="checkbox"/> 地図	<input type="checkbox"/> 非常食
<input type="checkbox"/> 防寒着	<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> 救急セット
<input type="checkbox"/> 長袖シャツ	<input type="checkbox"/> 飲料水	
<input type="checkbox"/> バックパック	<input type="checkbox"/> ビニール袋	
	<input type="checkbox"/> タオル	
	<input type="checkbox"/> ティッシュ	

散策の心得

- ・履きなれたシューズで出かけよう。
- ・自分のペースでゆっくり歩こう。
- ・飲み物も忘れずに！
- ・車には十分注意しよう。
- ・ゴミは必ず持ち帰ろう。
- ・ペットの糞対策も忘れずに！



アクセス



バック・ナンバーは左のエロ「散策 善通寺」より閲覧できます。
<http://shigakuweb.jindo.com>

制作・お問い合わせ

四国学院大学・四学ウェブ
 (shigakuweb@yahoo.co.jp)

四国学院大学 四年生

河野 麻弥

制作協力

善通寺市役所土木都市計画課

(Tel. 63-6314)

参考文献

みちくさ遍路 2001

